

計画をもって授業に臨んでいますか

－板書型指導案活用のすすめ－

山口県教育庁義務教育課

授業計画の必要性

児童生徒に確かな学力を保障するために、授業の内容と方法を明確にし、見通しをもって、日々の授業に臨むことが大切です。そのために作成するものが「指導案」です。指導案には授業研究会などで用いられるもの、日常の授業で準備されるものなど様々ですが、

- ① 何を、どう学ばせるのか → 本時の目標（主眼）
- ② 何を、どう考えさせるのか → 展開・発問
- ③ 何を、どうまとめていくのか → 板書

の3点は、必ず計画しておく必要があります。

特に、③の板書を計画することで、めあてや予想される子どもの反応、まとめなどを整理し、授業の流れをイメージすることができます。

板書型指導案とは

日々の授業計画の方法の一つに、「板書型指導案」があります。この「板書型指導案」は、授業での板書計画を中心に、実施する授業の見通しを明確にしたものです。

<板書型指導案の例>

「

令和 年 月 日（ ）

指導者

1 主眼

【①主眼】

「〇〇する活動を通して、〇〇が理解できる」のように活動と学習内容をセットにして、本時の授業の核心を、子どもの姿で書き記します。

2 指導上の留意点

3 評価

【その他の項目】

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの指導上の留意点や評価など、必要な項目を書き出して、授業でできたかを振り返りましょう。

【③板書】

「板書型指導案」の最も必要な要素である板書計画を書きます。授業の「めあて」や「まとめ」、構想している授業展開、予想される児童生徒の意見などを、構造的に、明確に表すようにします。

【②展開・発問】

一斉指導、ペアワークやグループワークなど学習形態の工夫や、子どもの学習活動を促す指示や思考を深める発問を書きます。また、予想される子どもの反応やそれに対する手立てを整理しておくことで、授業展開を明確にしておきます。

本時の流れ

